

峰のひかり

発行人
 社会福祉法人 七峰会
 理事長 成田 梧朗
 〒036-8356
 青森県弘前市大字下白銀町21-8
 電話 (0172) 33-8861
 F A X (0172) 33-8862

グループホームアップル (痴呆対応型共同生活介護)



かねてより、建設中でありましたグループホームアップルが、平成13年2月20日竣工されました。

痴呆対応型共同生活介護は、一般に痴呆性高齢者グループホームの名で知られていますが、痴呆の状態にある要介護者の方が小規模でゆったりとした家庭的な雰囲気の中で利用者同士と職員が一緒になって生活します。食事づくりや掃除、洗濯、買い物などの個々に役割を持ち、入浴や排泄などの支援を受けながら日常生活が可能になることを目的とした施設です。

母体施設のサンアップルホームでも、利用される方々が自宅で暮らしていた時と同じ環境で生活できるよう、愛着のある水い間使ってこられた家財道具の持ち込みなどに対応してきました。グループホームアップルでは、さらに、その需要に答えることが大切であると考え居室のスペースを通常より広く取り入れております。又、近隣の方々との交流を含め、ごく自然なかたちで共同生活をする事によって、その人らしさを取り戻し和やかな生活が継続できるよう専門職員がお手伝いさせていただきます。

当面は9名までお受けできます。全室個室でプライベートな空間が確保される一方で居間や食堂など交流できる場も整っています。又、生活する上で通院介助等の在宅福祉サービスも受けることができ、あくまでも、家庭の延長線上として個人の生活が送れるよう支援いたします。

「グループホームアップルと自宅は目に見えない廊下でつながっている。」と私どもは考えております。

開所は平成13年3月1日を予定しています。グループホームを利用したいとお考えの方はお気軽にご一報ください。

グループホームアップル

特別養護老人ホーム サンアップルホーム

サンアップル短期入所生活介護センター

常時、入所申し込みを受け付け致します

TEL 97-2111

お電話お待ちしております

新年互礼会開催

平成13年1月5日(金)、『ホテルニューキャッスル』において当法人「七峰会新年互礼会」が開催されました。始めに、研修会の一環として、長野パラリンピック日本選手団の主将を務められた「(有)ユウコーポレーション」の代表取締役社長長の四戸龍英様より、ご自分の経験を基にした説得力のある、ご講演がありました。私たちの仕事に間接的にヒントと情熱を与えてくれるお話で、大きな感銘を受けました。

その後、成田梧朗理事長より年頭の訓辞があり、社会福祉の変革の折り職員一丸となって全員が経営意識をもった取り組みで進むべき姿勢が示されました。

続いて懇親会では、ご来賓の弘前市長・金沢隆様よりご祝辞を、また、岩木町収入役・山城正子様より乾杯のご発声を賜り、新世紀の出発に当たっての新年互礼会が、有意義に且つ盛会に執り行われました。



長野パラリンピック
日本選手団
主将 四戸龍英氏

盛況です！支援センター

相談続々イベント次々

弘前市障害者支援センターが開設されて、早四ヶ月が経過しました。支援センターの活動を知ってもらうために市の広報紙をはじめラジオや新聞の協力をいただいたこともあり、順調に支援活動を展開しています。



“クリスマスパーティー”

1 各種相談活動の状況

① 福祉サービスがよくわからない？

サービス内容を知らない、窓口が良くわからない、費用の心配、役所に出向くのに抵抗があるなどの理由からサービスを利用していなかった事例が目立ちます。

② 福祉サービスの制約

サービスの提供が費用、回数、曜日、



“パソコン教室”

時間帯などで制約があったり、サービス利用にあたっての情報提供が適切に行われていないこともあるようです。

③ 社会資源活用に関する相談が多い

福祉機器の利用援助、外出支援についての相談が多く、社会生活力を高める支援としては趣味や余暇活動にかかわる内容が多く見られます。その他、就労についての相談が増えてきています。

支援センターでは、相談内容をよく聞きながら、場合によっては訪問回数を重ね、本当に必要なサービスが何であるのか、生活を支援していく為のサービスを組み立てていくお手伝いをさせていただいています。また、必要に応じてサービス提供機関への橋渡しを関係機関との連

携の中で行っています。

障害者の支援には、ピアカウンセラーやボランティアの役割も大きく、センターの一翼を担ってくれています。

2 イベント情報の発信と企画実施

センターでは各種イベントを計画的に実施しています。パソコン教室、福祉機器展、クリスマス会を実施してきましたが、パソコン教室は、毎回定員いっぱい状態、人気の高さを物語っています。また、福祉機器展は介護にとどまらず、障害者の方々の自立支援に焦点を当てた展示をメインにしています。第一回目の展示では、コミュニケーション機器への関心が高かったようです。

今後、支援センターでは調理実習、手話、外出支援などの企画を計画しています。企画にあたってはさまざまな障害をもつ方々を視野に入れた企画が必要と考えています。

障害を持つ方々の自立と社会参加支援に向けた役割を、次年度の活動の中で、さらに充実させていきたいと思っております。で今後ともよろしくおねがいいたします。

食材の総合商社

(有) 加 商

TEL 二七 四三三〇
本社 弘前市末広

一人ひとりの 社会参加を支えます

昨年(平成12年)の11月16日に開催されました、「知的障害児・者音楽活動発表会」へ参加してきました。

この音楽発表会は、「青森県知的障害者愛護協会」が毎年主催して行われているもので、今回が4回目です。

知的障害を持つ人たちの社会参加の一助として、自らを表現する音楽などの文化的な活動にこれまで以上に着目し、個性的な創造活動を積極的に支援してゆこうというのが開催の主旨となっています。

これまでの2回は、見学だけでしたが、今年は拓光園からも発表したいという利用者の意欲が高まり、初めての発表参加が実現しました。

当日は、県内の各地域から個人や団体を合わせて15組の参加があり、中には、ロックバンドによるビートルズナンバーの演奏や、そろいのはつぴ姿で踊るヨサコイソーラン、津軽の伝統芸能である岩木山登山ばやし(古式豊かな日本舞踊)など、しっかりとした演奏や踊りを立派な衣装や振り付けで見せてくれる施設もあり、客席の応援団も自分の施設の発表では大きな声援を送っています。

拓光園は7番目で、利用者を代表し最年長79歳の五十嵐さんによるハーモニカ

演奏が行われました。若い頃から得意としていたハーモニカですが、発表が決まっていた約一ヶ月間は毎日練習を欠かしていませんでした。

真つ赤なブレザーで着飾った五十嵐さんが登場すると、応援団からは、われんばかりの拍手がおこりました。1曲目『富士山』の演奏は緊張のせいか固さが感じられましたが、『くつが鳴る』『かかし』を演奏するうちに本領を発揮し、応援団も懸命に声援を送り、舞台と客席が一体となった瞬間でした。

五十嵐さんは演奏の後に「自分はゆくりと丁寧(ていねい)に演奏することを心がけた、自分のハーモニカを多くの人に聞いてもらいたかった。」と語っています。

障害者の社会参加が叫ばれる中において、その表現に向けたさまざまな取り組みが行われています。拓光園ではこれからも一人ひとりのための社会参加を支援して行きます。



たくさんの人に 支えられて

―障害者(児)ホームヘルプ

サービスを利用する―

平成10年11月、拓心館グループが支援するアパート暮らしの女性3名は、ホームヘルプの利用を始めました。全員一般企業に就職して帰りの時間が遅いため、食料の買い出しと夕食の支度を週二回お願いしたわけですが、おかげで、彼女たちは安心して仕事に就くことができました。ただそればかりではなく、メンバーの一人が風邪で寝込んだ時、訪ねて来たホームヘルパーさんがお粥を作り、看病してくれました。また、一緒にクリスマス会を開くなど、信頼のきずなは深まるばかりです。

今年1月からは、八千代ホームで暮らし男性が洗濯と掃除のため、同じくヘルパー制度を利用し始めました。平日は自分で行っているものの、正直に言っても少し苦手です。日曜日の休日、普段上手にできない部分を手伝ってもらい、身辺も心もスッキリさせて、月曜日からまた元気に出勤します。

これまでは知的な障害を持った人たちの自立を、「身辺処理ができること(自分のことは自分で)」と定義づけてきた風潮がありました。でも誰でもがそうであるように、出来ないことや苦手なこと

はあつて当たり前です。全てソツなくこなせなければ、施設から出られないというのは、とても理不尽なことです。そこで、「人の力をお借りして不十分な所を補ってもらえれば地域生活が送れる」ということを、「自立」と考えるように変わってきました。

心身障害者(児)ホームヘルプサービスは、住まいする市町村に申請するところから始まります。本人や家庭の状況により、必要と判断されれば制限なくサービスが受けられます。内容は家事・介護が主ですが、これからは外出に付き添うガイドヘルパーの検討もなされています。つまり自立支援、社会参加支援の大きな味方とすることができるよう。利用料は応能負担で、所得に応じて金額が決まります。

知的な障害をもつ人たちの利用はまだまだ少ないようですが、社会資源を100%活用して自分らしい生活を送ることに疑問はありません。悩みを福祉サービスに映して、一人でも多くの人が地元で心地よく暮らしてほしいと思います。拓心館グループには知的障害者地域生活支援センターが併設されており、多数の方々相談に応じています。困り事を我慢せず、あきらめず、何でもご連絡ください。厚い、熱い支援をお約束します。



飽食の時代、「食」に関する情報の多い昨今ですが、今回は「毎日行列の出来る食堂！」旭光園の厨房を紹介します。

日々の、生活の楽しみの中で、「夕食は何か?」「おいしい○○が食べれる。」等、そんな事を思うと、仕事にも一層力が入るといふもの……。旭光園でも、利用者の要望や季節感等を大切に、様々なメニューで食事を提供しています。

1月22日の夕食会は、すき焼でした。ちよつと甘めのタレ、やわらかな肉が食欲をそそり、4、5人が一つの鍋を囲む和気藹々とした食事は、仕事の疲れをとり、冬の寒さも心から暖めてくれます。

そんな、厨房を預かる栄養士と調理員に、毎日心掛けている事を、訊ねてみました。

栄養士から一言。

「食事は、栄養面も大切ですが、美味しく、楽しく食べてもらえる献立を第一に考え、苦手なメニューには、代替食を留意し、選択食も行っています。

また、残食を見ると、健康に必要では非とも摂ってほしい野菜や魚などが多いので、出来るだけ食べてもらえるよう調理法を考えたり、個別にお勧めしていま

調理員からは、

「できるだけ、温かい料理を提供出来るよう時間を考えて調理したり、油抜きなどの指導がある利用者の方には、味が落ちない工夫をし、食べやすさを考え一口サイズの大きさにする等気を付けています。

また、食事中利用者から生の声を聞かせてもらうようにしています。」との事でした。

食事は、健康の源であり、皆の共通の楽しみでもあります。

これからも「愛情」という調味料をたっぶり利かせて提供していきたいと思えます。



♪注文お待ちしております!♪

- ・レジバック、ゴミ袋
 - ・シール・ラベル印刷
 - ・各種割り箸、ホルダーケース
- TEL 0172-57-5155
FAX 0172-57-5156

後援会員へのサービス強化を!

—13年度総会を2月18日開催—

後援会役員会は1月27日法人会議室で開催されました。

会員の皆さんには既に総会案内は届けられています。又、沢山の会員が総会に参加されるでしょうとご期待いたしております。

13年度総会では、21世紀に入った此の年を機会に後援会の懸案事項解決のために努力する事に重点をおきながら、会員サービスを厚くしていくこととする計画をもちました。(詳細は次号で)

議題の主な事を挙げると次の通りです
①新入会員15人、前年に比べ会費の納入者が14人増した事と11年度までの会費を24口納入協力して下さった事等(報告事項)

②経費を切り詰めて、事業費(援助基金)に120万円を充て、基金が380万円を超えた事等(法人に寄付する財源で決算の承認を求める事項)

③会員である方々への法人活動が有利に協力してもらえらる事等(事業)
④役員を2人増員する事(役員改選)
拓光園の改築完成・グループホームアップル新築完成を目前にしています。

知的障害者援護

拓心館 TEL 82-4520
地域生活援助事業
生活自立訓練事業
地域生活支援センター
勇心学園

拓光園 TEL 96-2331
知的障害者短期入所事業
自活訓練事業

身体障害者援護

山郷館 TEL 97-2211
身体障害者短期入所事業
山郷館デイサービスセンター
(通所介護)
山郷館訪問介護センター
(訪問介護)

弘前市委託事業
身体障害者相談支援事業
弘前市障害者生活支援センター
TEL 31-2400
TEL 57-5155

旭光園
通所相互利用事業
TEL 57-5155

指定介護老人福祉

山郷館居宅介護支援センター
TEL 97-2941

サンアップル居宅介護支援センター
TEL 97-2131

サンアップルホーム TEL 97-2111
サンアップル短期入所生活介護センター
サンアップルホームデイサービスセンター
(通所介護)
サンアップルヘルパーセンター
(訪問介護)

グループホームアップル
(痴呆対応型共同生活介護)

弘前市委託事業
サンアップル在宅介護支援センター
TEL 97-2131

居宅介護支援事業

山郷館居宅介護支援センター
TEL 97-2941

サンアップル居宅介護支援センター
TEL 97-2131